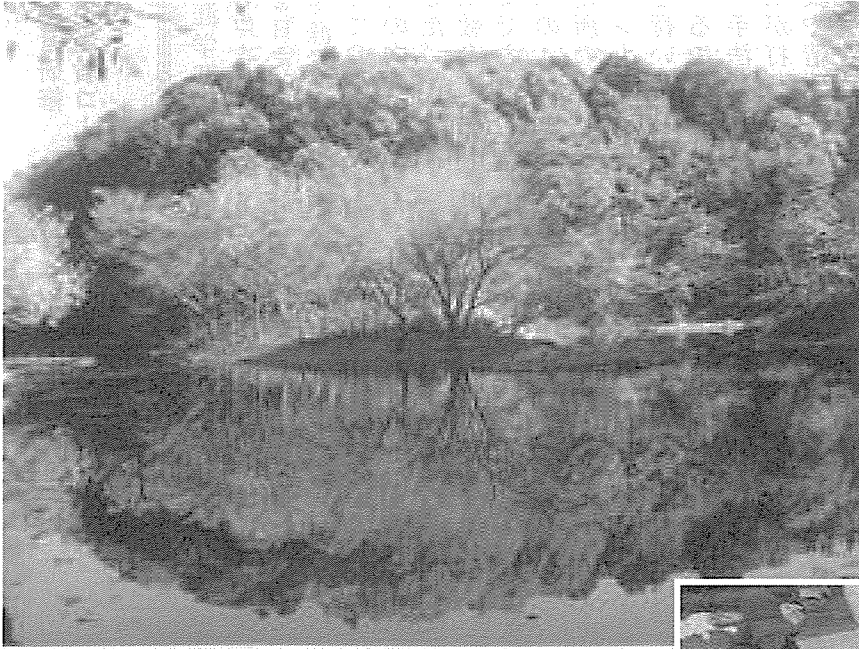
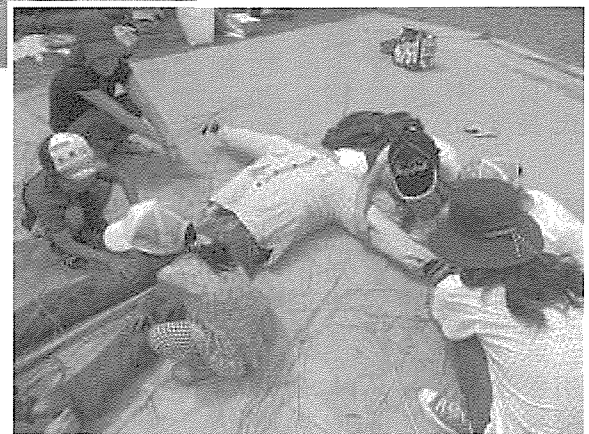


公民館かながわ



『県立座間谷戸山公園
水鳥の池』



『親子で米作り隊 かかしづくり』

目次

平成27年度 生涯学習指導者研修 「公民館担当者コース」	2
平成27年度 館長・公民館運営審議会委員等 研修会	4
第57回神奈川県公民館大会 「市民（住民）との協働で つくる学びとは 期待される公民館像」	5
サークル紹介 『大井町すいせん会 大井しらゆり教室』 （大井町生涯学習センター） 『コール高森』 （伊勢原市立成瀬公民館）	6
わが館では 「平塚市立土屋公民館」 「三浦市初声市民センター」	7
全国・関ブロ大会開催へ 第38回全国公民館研究集会 神奈川大会 第57回関東甲信越静 公民館研究大会 in さがみはら	8
平成28年度総会	8
表紙写真解説 《県立座間谷戸山公園》 （座間市）	8
編集後記	8

平成27年度
生涯学習指導者研修
「公民館担当者コース」
事業報告

聖学院大学教授

小池 茂子氏

○講義「社会教育施設との多様な連携について」
平塚市博物館館長代理

栗山 雄揮氏

○事例発表「公民館事業と博物館事業の連携について」はやぶさ2と日本の宇宙開発」
平塚市立四之宮公民館主事

安倍 翔太氏

○体験学習「プラネタリウムでの連携事業体験」
平塚市博物館学芸員

藤井 大地氏

B 6月10日(水)

会場：藤沢合同庁舎

○講義と参加者交流「即、学級・講座に使えるアイスブレイキング」
湘南三浦教育事務所社会教育主事兼指導主事

中山 賢一氏

○事例発表「公民館事業の紹介」特色のある事業から」
藤沢市立村岡公民館主査

河野 光志氏

○事例発表「茅ヶ崎市市の公民館事業について」松林公民館の取り組み」
茅ヶ崎市立松林公民館主任

加藤 航輔氏

熊谷 健太氏

川崎市教育文化会館事務職員

齋藤 遼平氏

D 7月3日(金)
会場：平塚合同庁舎

○講義と参加者交流「即、学級・講座に使えるアイスブレイキング」
中教育事務所社会教育主事兼指導主事

永野 文氏

○事例発表「家庭教育学級の企画・運営とフォローについて」
平塚市立金目公民館主事

嶋崎 和栄氏

○事例発表「公民館と地域の連携事業について」地域で学ぼう 防災体験」
秦野市立大根公民館館長

櫻田 茂氏

秦野市大根地区自治会連合会 防災部長
筒井 高幸氏

《第2回 実務編》

A 6月3日(水)

会場：高相合同庁舎

○講義と参加者交流「即、学級・講座に使えるアイスブレイキング」
県央教育事務所社会教育主事兼指導主事

太田 公仁氏

○事例発表「地域の伝統芸能『相模人形芝居林座』の継承について」
厚木市立睦合西公民館主事

永井 隼人氏

○事例発表「家庭教育支援講座」
「どんと来い思春期」
相模原市立中央公民館

家庭教育支援講座実行委員長

小澤 隆宏氏
活動推進員 篠塚 久氏

C 6月25日(木)

会場：川崎市教育文化会館

○講義と参加者交流「即、学級・講座に使えるアイスブレイキング」
県西教育事務所社会教育主事兼指導主事

高橋 壮芳氏

○事例発表「公民館の廃止と市長部局移管・生涯学習センターの指定管理者制度導入」横須賀市の事例から」
横須賀市教育委員会生涯学習課課長補佐兼社会教育主事

高橋 直人氏

○事例発表「川崎市教育文化会館の人権学習事業について」

平成27年度生涯学習指導者研修「公民館担当者コース」が、5月28日から9月2日までの間、計7回にわたり、「生涯学習・社会教育の地域拠点としての公民館のあり方と職員の能力の向上」をテーマに開催されました。
この研修は、県教育委員会と県公連との共催事業です。
今年度は第2回の4つの会場で、最初に各教育事務所の社会教育主事によるアイスブレイキングの講義と参加者交流を行いました。実際に活動を体験することで、アイスブレイキングの手法を学ぶとともに、参加者同士が打ち解けて、その後の事例発表や情報交換が、温かく和やかな雰囲気の中で、より活発なものになりました。
延べ210人の参加があり、どの回も、意欲的に話し合いに臨んでいる姿が見られました。

《第1回 基礎編》

5月28日(木)

会場：平塚市博物館講堂

○講義「生涯学習・社会教育関係職員」の果たすべき役割について」



《第3回 実務編》

7月24日(金)

会場：座間市立東地区文化センター

○人権教育講話「インクルーシブ社会実現のための人権を考える」

田園調布学園大学教授

鈴木 文治氏

○事例発表「公民館で楽しむ高齢者生涯学習学級、あすなる大学」

座間市立東地区文化センター

社会教育指導員 安藤咲枝氏

あすなる大学あすなる会会長

田中 定三氏

○講義「県内公民館・県公連について」

県教育局生涯学習課主査兼社会教育主事(県公連事務局)

藤沖 亮氏

○情報提供「PLANEETかながわ」の紹介と活用について

県立図書館生涯学習サポート課主事

関根 翔氏

○グループワーク「プログラム作成の手法」高齢者学級・講座のプログラムを考えてみよう

「フアンリテーター」

座間市立東地区文化センター

館長 植松 賢也氏

〔協力〕

あすなる大学あすなる会プログラム委員

《第4回 課題研究編》

9月2日(水)

会場：県立図書館

○事例発表「公民館で経験し、学び合う」相模原市立大野南公民館若者講座の3年間から」

相模原市立大野南公民館活動推進員

中山 恵利奈氏

○事例発表「自立に課題を抱える若者の社会参加支援事業の取り組み」

東京都国立市公民館社会教育主事

井口 啓太郎氏

○講義「地域福祉と公民館の学びの今日的な課題」

日本社会事業大学教授

辻 浩氏

○ワークショップ「地域課題の解決につなげる公民館の活動とは」

相模原市立清新公民館館長代理

遠藤 誠氏



△研修後のアンケートより▽

講義「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割について」

「生涯学習・社会教育の定義や違い、今後、公民館に求められる役割について、分かりやすく学習することができた。」「学習」と「教育」の違い、そしてどちらにしても『働きかけ』という部分では、社会教育行政を行う職員の仕事はまだまだ広がるのではないかと考えた。」

講義「社会教育施設との多様な連携について」

「両方向からの発表だったので、より深く連携をイメージできた。」「それぞれの施設に得意分野があるので、それを把握し、連携を図っていくことで、多様な事業展開ができると感じた。」

人権教育講話「インクルーシブ社会実現のための人権を考える」

「地域で支えるという言葉はよく使うフレーズであるが、非常に難しいものであると改めて感じた。しっかりと考え、向き合わなければならぬと感じた。」「発達障がいやホームレスなど、差別されやすい立場にいる方を支えていくには、地域や一人一人個人の理解が必要。公民館でも、社会課題として取り組むべき内容だと思った。」

講義「地域福祉と公民館の学びの今日的な課題」

「地域福祉の歴史、障がい者、子ども、若者に対する公民館の可能性が勉強できて、今後のためになった。」「若者の生きづらさ、困難、貧困について、公民館(地域を知っている職員)とケースワーカー等(困難な市民を知っている職員)との連携の話が印象に残った。」

ワークショップ「地域課題の解決につなげる公民館の活動とは」

「他市町の方々と交流しながら、課題の解決を検討できたことはよかった。」「地域課題を考え、事業のテーマとしていくことで、効果的な事業展開ができると感じた。」

各館の事例発表

「事例を聞いたことで、自分の市でも何かできることはないかと、業務にもっと積極的になろうという気持ちになった。」「取組の中で、悩まれていることも聞いて、参考になった。」「他市町の事例を聞くことによつて気づきが生まれると思う。今後も地域の特色ある事例を数多く紹介してほしい。」

情報交換

「他市の話を聞くと、新しい発見があるとともに、自分の市を客観的に見ることができ、よい機会となった。」「自治体ごとに体制が違ふため、情報交換することで、大きな改善の可能性があることがわかった。」「市によつて組織体制も異なるが、地域の人の力を必要とする点では共通とわかった。」

(県公連経営・研修部会)

平成27年度館長・公民館運営審議会委員等研修会
 「今、なぜ公民館が必要とされているのか？」
 ～住民の学びを支え、地域づくりに貢献する公民館の役割を
 考える～

平成27年度館長・公民館運営審議会委員等研修会が、11月12日(木)に茅ヶ崎市コミュニティ・ホールで開催されました。

今年度は神奈川県教育委員会の社会教育主事に講師をお願いして、人権の基礎的な知識や、国や県の人権教育の取組みなどを参加体験型学習を交えて学びました。

講演では、社会教育や社会教育施設等を、法規や時代背景等をご講義いただくなかで公民館の意義やその職員の役割を考え、学びました。参加者131名

① 人権講話

「神奈川県の人権教育の推進について」

神奈川県教育委員会

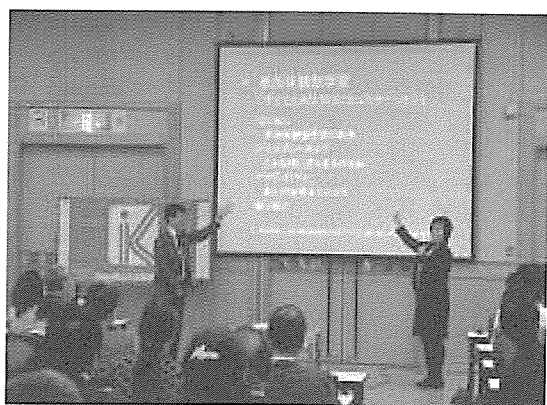
教育局行政部行政課

グループリーダー兼社会教育主宰

西田 孝予 氏

人権講話では、会場の参加者に質問を投げかけたり、意見を伺ったり等、講師がお話するだけでなく、参加者と一体となって講話を進行させていました。そもそも人権とは何か、尊重するということ

は何かということを入権バスケットというイメージのしやすいものを用いてお話されました。また、社会教育の場では講座形式のような知識伝達型が多いように感じるが、人権感覚を磨くことも必要であるというお話の中で、参加体験型学習の体験を全体で行いました。体験を終えると、県の取組の説明や県が発行している資料等を紹介いただきました。



西田氏は、講話中、話し方やグループワーク等の進行などにもさりげなく気をつかわれていたように感じました。こういった人権教育の事業を実施する際に担当者が「人権を学ぶ場が人権を尊重していること・配慮していることに気をつける」ことで、講義の内容による人権の知的理解だけでなく、人権感覚も育むことが出来るということ、受講者は今回の講話を受け、肌で感じる事ができたのではないのでしょうか。

② 講演

「社会教育施設とコミュニティ施設・

公民館の意義、職員の役割を考える」

千葉大学教授

長澤 成次 氏

はじめに、コミュニティ施設としての公民館のお話がありました。長澤氏が千葉県の公民館が東日本大震災時にどのように対応したのか調査された際に、条例で設置されたわけではない地域自主開設の公民館があったというお話では、こういった地域での取組が災害時等で効果が期待できると述べられました。しかし、条例設置の公民館とそうではない公民館がどう連携していくかが課題となるということも話されました。

次に、社会教育施設、教育機関

としての公民館について、その関連法規や時代的な流れ、現在の公民館の設置状況、日本の教育の現状などをお話いただきました。長澤氏は、コミセンと公民館の決定的な違いは教育事業を行うところであると述べられた一方、公民館が最近では過去に比べ、教育的な事業が多くなり、それは教育機関となってしまうことが原因であるという声もあるということをお話されました。しかし、長澤氏は逆に教育機関であるがゆえにもっと様々なことに挑戦することが出来るのではないかと、というご自身の考えを述べられました。

現在、各自治体の判断で様相が変わっていますが、公民館が人々のネットワークを作り、様々な形で地域づくりに貢献していくことを考えていくことが重要であると再確認しました。その中で、社会教育法でも規定されている「学びの自由」を最大限保障すること、公民館での学びを最も必要としている人たちに目を向けていくこと、市民と市民、職員と職員、市民と職員がともに学びあい、住民自治力を高めることが私たちの役割であるということをお話いただきました。

(公民館経営・研修部会)

第57回神奈川県公民館大会

テーマ「市民(住民)との

協働でつくる学びとは

「期待される公民館像」

◇日時

平成28年1月29日(金)

12時30分～16時30分

◇会場

川崎市高津市民館 大ホール

「本大会では、あらためて公民館活動の本質に立ち返るとともに、市民(住民)との協働による地域の社会のさらなる発展に向け、新たに期待される公民館像を考えます。」という趣旨のもと、県内各市町村公民館等関係者、社会教育関係者など約340名が参加し、盛大に開催されました。

◇ウェルカムコンサート

大会参加者を歓迎するため、「高津第九を歌う会」を母体に、地域や市民生活に根ざした大型の混声合唱団として平成2年に誕生し、ミューザ川崎シンフォニーホールで定期演奏会を行っている「高津市民合唱団」による合唱が行われました。

◇大会式典・表彰式

高津市民合唱団と参加者一同に

よる『公民館の歌』斉唱で始まり、木下敬之会長と川崎市教育委員会渡邊直美教育長の主催者あいさつ、各種表彰に続き、川崎市高津区役所土方慎也区長と神奈川県教育委員会教育局久我肇副局長から御祝辞をいただきました。

○神奈川県公民館連絡協議会表彰

【優良公民館表彰】

川崎市中原市民館

相模原市立中央公民館

厚木市立厚木北公民館

厚木市立荻野公民館

厚木市立相川公民館

【職員等功績表彰】

中村高明(川崎市国際交流センター)

ター)

【永年勤続表彰】

小林義仁(川崎市麻生市民館)

新井健司(川崎市高津市民館)

片山美緒(川崎市教育委員会生涯学習推進課)

涯学習推進課)

大津雅史(藤沢市立辻堂公民館)

畑中英俊(大和市生涯学習センター)

ター)

◇パネルディスカッション

「期待される公民館像」

○コーディネーター

日本女子大学人間社会学部

教育学科 教授 田中雅文 氏

○パネリスト

川崎市幸市民館 市民自主企画

事業「おひさまクラブ」ほっこ

りーな 成川はつえ 氏

・川崎市高津市民館運営審議会

会長 金 俊一郎 氏

・特定非営利活動法人アクト川崎

理事 笹子まさえ 氏

はじめに、田中氏からテーマに

ついて確認があり、3人のパネリ

ストから、それぞれ自己紹介と市

民館との関わりなどについて話が

ありました。その後、コーディネ

ーターとパネリストのディスカッ

ションが行われ、公民館は地域の

活動拠点であり、そこに勤務する

職員の役割が非常に大きいことが

確認され、テーマ「期待される公

民館像」→「期待される職員像」

としてまとめがなされました。

◇講演

「古代武蔵国橘樹郡の寺院と役所

跡」

○かわさき市民アカデミー

副学長 村田文夫 氏

村田氏からは、平成27年3月

10日、高津区千年に所在する古代

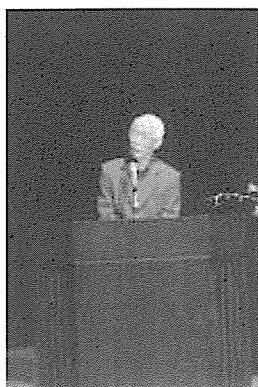
橘樹郡衙の正倉院を中心とする範

囲と、宮前区野川に所在する古

刹・影向寺が国史跡に指定された

ことに因み、役所跡と寺院につい

てご講演をいただきました。



◇会旗引継

大会の最後は、川崎市教育委員

会渡邊直美教育長から次期開催地

の相模原市教育委員会岡本 実教

育長へ会旗が引き継がれました。

なお、第58回神奈川県公民館大

会は、「第38回全国公民館研究集

会神奈川大会・第57回関東甲信越

静公民館研究大会 in さがみはら」

を兼ねて、平成28年8月25日・

26日に相模女子大学グリーンホ

ール他で開催されます。

(大会部会長 五十嵐豊和)



サークル紹介

『大井町すいせん会』

大井町生涯学習センター

私たち大井町すいせん会と大井しらゆり教室は、生涯学習センターにおいて、月3回、19時30分から新舞踊・民舞踊の練習を行っています。発会して20年、踊りの大好きな人たちが集まり舞踊を学ぶなかで着物文化の良さや、地方に根付いた民謡を踊りで表現できる楽しさを味わっています。

少子・高齢社会を迎えた今は、いろいろなところで未病対策や介護予防などの言葉を聞くようになりました。いつまでも元気で生きるためには目標と生きがいを持つことが大切だと言われており、私たちは、踊りという生きがいを持って練習に励んでいます。その成果として慰問活動や町事業、町文化団体連絡協議会主催事業などに積極的に出演し、観てくださる人たちから「よかったよ」とのお声をいただくこと最高の喜びを感じます。

私たちは「秀麗会」という会に所属しています。平成26年に45年間続いた民族芸能文化連盟が発展し、「秀麗会」となりました。心新たに「秀麗会」は、日本の心を地

域へ世界へと広げてゆこうと、舞踊団「若竹」を先頭に、中国、台湾で公演活動も行っており、大好評です。



私たちの教室も心同じく、世界に目を向けつつも日本の心を大切に、地域に根ざした活動を心がけ、生徒一同練習に励んでいます。

本年7月3日には生涯学習センターにおいて「おさらい会」を開催する予定です。無事故・大成功を願いながら、日頃の練習の成果をひとりでも多くの方に観ていただき、一緒に踊れる仲間が増えることを心より希望しています。

(藤沢 ケイ子)

『コール高森』

伊勢原市立成瀬公民館

1973年。歌の好きな若い母親が地域の集会所に集まり合唱を始めました。コール高森の誕生です。

やがて拠点を成瀬公民館に移して合唱界の大御所、関屋晋先生を指揮者にお迎えし様々な活動をするも、2005年、先生が急逝されてあわや高森解散！という非常事態になりました。悲嘆にくれながらも再び良い指導者の下で歌いたいという団員の熱意で松村努先生をお迎えすることができ、高森の再生につながりました。

松村先生の緻密で、豊かな音楽性溢れるご指導はいつも「なるほど！」と納得し、充実感がいっぱいです。そんな先生に惹かれ、団員も少しずつ増えてきて、2010年には先生をお迎えして初めての演奏会を「杜のホールはしもと」で開催。以後隔年に演奏会を開き、2016年9月には4回目の演奏会を「みなとみらい小ホール」で開催する運びとなりました。

活動は、神奈川県合唱祭、音楽堂おかあさんコーラスなどに参加のほか、地域では毎年伊勢原市民合唱祭、成瀬公民館まつりに参加しています。

2014年には高森にとつて初めての「全日本おかあさんコー

ラス大会」に挑戦し、関東支部大会にまで進み、優良賞を獲得！次のステップへ向けての良い励みとなりました。



また、2016年1月には松村先生の還暦をお祝いしての「ダイヤモンドコンサート」が「みなとみらい大ホール」で開催され、先生のご指導を受けている10余りの団体が一堂に会しました。

ピアノニストは地元出身の佐藤涼子先生。ヴォイストレーナーは魅力溢れる田中詩乃先生。良い指導者たちに支えられて、更に高みへと練習を重ねています。願わくは一緒に歌う仲間がもっとも増えますように。

(荒井 祐子)

わが館では・・・

『平塚市立土屋公民館』

わが館では、地元の菊づくり愛好会の皆さんに協力いただき、土屋小学校児童を対象とした「菊づくり」を昭和60年から実施しています。

愛好会の皆さんの指導のもと鉢植えの菊を半年間かけて育て上げ、11月上旬に公民館で開催される「つちや菊花展」に愛好会の皆さんの作品とともに出展します。

わが館の名物事業としてすっかり定着した「菊づくり」ですが、今年度、新たな取り組みとして「土屋ざる菊園」の整備を行いました。ことの発端は、一昨年まで橋の架替工事の資材置き場として使用していた約1000平方メートルの畑を、地権者から「ざる菊を植えてみたら」と提案されたことでした。

全てが初めてのことで、当初は何をどうすればよいのかわからない状況でしたが、試行錯誤の末、新たに「ざる菊愛好会」を立ち上げ、公民館との共催という形で整備することにしました。

赤、白、黄色、ピンクの約800本の苗を会員で持ち寄り、5月には挿し芽を、7月には計画図面

に合わせて苗植えを行いました。一番目立つ道路側の2列は土屋小学校児童に協力してもらいました。その後、会員や児童が除草などの作業を定期的に行い、10月には完成の証として手作りの看板を掲げました。



11月上旬には4色のざる菊が満開を迎え、新聞等で取り上げられたこともあり、土屋地区内外はもちろん、平塚市外からも多くの方が見物に訪れました。

当初は、あまり乗り気ではなかった会員も、思わぬ反響に「来年はもっと綺麗に咲かせて土屋の名所にしよう」と意気込んでいます。公民館としてもこれからもこのような地域を繋ぐ事業に積極的に取り組んでいくとともに、土屋地区の素晴らしさを発信していきたいと考えています。

『三浦市初声 市民センター』

わが館では、生涯学習を推進する場として、小学生や市内在住・在勤の方等を対象に、様々な講座や教室を開催しております。その中でも特に人気があり継続的に行っている講座等を4点紹介いたします。

最初は、夏休みに親子でふれあう『親子やきもの教室』です。親子で協力し上手に土をこね、焼き上がった窯からは本物そっくりな恐竜の出現や、陶芸家の講師もびつくりするようなオリジナルで本格的な作品も多くあり、児童の創造力を育てる機会にもなっているようです。


2点目は、三浦といえば地元ゆかりの題材の1つである『三浦一族』。いまだに謎も多く、文学講座や歴史講座では古い書物や文献を紹介し、史跡めぐりは時空を超えて感慨にふけるひと時です。

3点目は、わが館の社会教育指導員の秋元みえさんが講師となり行っている『フラワーアレンジ』講座です。この講座はリピーターが多くとても好評で、彩りやバランスを考えながら花を活けることは、手先を使うため脳の活性化や認知症予防にも非常に効果的です。また、しめ縄を使ったお正月飾りや、クリスマスリースなど季節の

イベントに合わせた『フラワーアレンジ』は、作品を参加者同士で見せ合いながら、感想を述べるのも和気あいあいとした楽しいひと時となっています。



最後は、料理講座です。地域で採れた代表的な三浦市の食材である、三浦大根やキャベツ等を使った『料理講座』では、ひとり暮らしの高齢者でも簡単に調理できるものや、毎年新メニューを考案していただく等、斬新なアイデア料理を紹介しています。代表的な講座等4点紹介しましたが、わが館で開催した講座が縁となり、新しいサークルが発足した時は嬉しいかぎりです。今後も市民等のニーズにあった講座を開くとともに、地域交流がより一層深まるよう、事業を展開してまいります。



相模原市マスコットキャラクター「さがみん」

公民館のあるべき姿を探る2日間

第38回全国公民館研究集会神奈川大会

第57回関東甲信越静公民館研究大会 in さがみほら

8.25・26日

相模原市で開催

平成28年8月25日(木)と26日(金)の二日間、相模女子大学グリーンホールをメイン会場に「第38回全国公民館研究集会神奈川大会・第57回関東甲信越静公民館研究大会 in さがみほら」を開催します。

一日目の全体会は、「公民館の本質と役割と地域再生・未来への挑戦」と題した東京大学大学院教育学研究科教授の牧野篤さんの基調講演と、「公民館が果たすひとづくり・まちづくり」と題したパネルディスカッションで構成されています。パネルディスカッションでは、「コーディネーターに聖徳大学児童学科准教授の齊藤ゆかさん、パネリストに沖縄県若狭公民館の宮城潤さんと、文部科学省及び相模原市の公民館の方を御迎えし議論します。基調講演の牧野篤さんにもアドバイザーとして参

加いただきます。

また、開会アトラクションで、相模原市の千木良地区に伝わる方言劇「お小昼(こじゅう)のひととき」が「千木良のお小昼一座」によって披露されます。

二日目は相模原市内の公民館など5か所9会場に分かれ、分科会を行います。9つの分科会では、それぞれのテーマで、関東甲信越静地区の公民館の18の事例発表と意見交換を行います。

大会の準備にあたっては、平成27年度から県公連加盟市町全ての理事が実行委員となり、総務広報ブロック、全体会ブロック、分科会ブロックに分かれ、大会の成功に向けて準備を進めています。

今後は、評議員の方にも拡大実行委員として準備・運営をお願いいたします。

また、大会には、県公連非加盟

の市町村の方々にも積極的な参加を求めていきます。

一致団結して、全国からの参加者を迎え、「参加してよかった」と言っていただけのような大会を作っていきたいと思います。

開催地である相模原市の皆さまにはご負担をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

平成28年度総会

○日時
平成28年5月20日(金)
午後1時から

○会場
川崎市教育文化会館
川崎市川崎区 富士見2-1-3

○交通
JR川崎駅・京急川崎駅
徒歩15分

編集後記

「第38回全国公民館研究集会神奈川大会・第57回関東甲信越静公民館研究大会 in さがみほら」の開催も間近に迫ってきました。県公連加盟市町の皆様には、成功に向けてご協力をお願いします。

【総務・広報部会】

佐藤 忠(川崎市)、瀧 喜典(愛川町)、小嶋 聡(綾瀬市)、中山 早恵子(茅ヶ崎市)、見上 正行(三浦市)、鍵和田 和巳(箱根町)、岩本 政子(中井町)、太田 公仁(県央教育事務所)、高橋 壮芳(県西教育事務所)

表紙

《座間市の公民館と 県立座間谷戸山公園》 (座間市)

県立座間谷戸山公園は、小田急線座間駅から徒歩8分。平成5年に国の公園事業である「都市型自然生態観察公園(アーバン・エコロジーパーク)」の第1号として開園しました。農村の2次林と谷戸の風景をコンセプトに保全されたクヌギ、コナラの林と田んぼ、湧水に生息するホタルの保護、それらを座間市の公民館では、自然保護、風土保全、郷土愛を育むためのフィールドとして関わってきました。「親子ふれあい自然科学クラブ」「ふるさと塾」(座間市公民館)をとおした事業の指導者やボランティア育成と、公園協会と共催で行う「親子で米作り隊」(北地区文化センター)の事業をとおして、「谷戸山公園収穫祭」の誕生と運営に協力してきました。「公園収穫祭」では、「親子ふれあい自然科学クラブ」によるバームクーヘンや焼きイモづくり、毎年募集する「親子で米作り隊」が育て収穫した『もち米』でできた「お餅」は、1000名を超す来園者に振舞われています。ぜひ、ご来園ください。